

道徳科学習指導案

令和2年11月27日（金）第5校時 第1学年

- 1 **主題名** いじめのない世界へ（2）（内容項目 A－（1）自主、自律、自由と責任）
資料名 「傍観者でいいのか」（東京書籍 新しい道徳1）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値

本主題は、学習指導要領の内容項目A－（1）「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」をねらいとしている。どのような小さな行為であっても、自分で考え、自分の意思で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はその行為に対して責任をもつようになる。そこに、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれ、自らの責任によって生きる自信が育ち、一個の人間としての誇りがもてるようになると考える。

中学生という発達段階において、周囲の目や態度を気にしたり、自分の弱さに負けて易きに流されたりすることはよくあることである。すると、自ら正しいと判断したのにそれを実行せず、その結果生じた状態から目を背け無責任な言動をとることにつながる。そうならないために必要なことは、悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として退け、善を行おうとする良心の大切さやそれを実行するために自らを律することである。同時に、思っても行動できない人間（自分）の弱さについて考えながら、良心に基づく良い行為は、自分にとっても他者にとっても良い行為であることに気付くことが重要であると考え。そうすることで自分の行為が及ぼす結果について深く考え、責任ある行動がとれることにつながるのではないかと考える。

（2）生徒の実態

省略

（3）資料について

主人公である私は、当初肯定的に見ていたクラスを現在は否定的な気持ちで見ている。クラスのためにできることをやろうと思っていた私自身が、今や学校に行きたくないとまで思っている。背景には、クラスでからかわれているAさんの存在がある。Aさんは気が弱くてちょっと頼りなく、嫌がらないことをよいことにBさんやそのグループの仲間達に毎朝家まで迎えに来させられたり、からかわれたりするなどしている。クラスでは他の生徒達も一緒にAさんをはからかったり笑ったりし始める中、それを見ている私はいけないと分かっているが止めることができない。結果としてAさんはいじめを訴え学校に来ることができなくなってしまう。私は、Cさんの「Aさんのことを放っておけない」という一言がきっかけでその事実気付くことになる。

特に、Cさんの一言ではっとしたときの私の気持ちや、分かっているのに何も行動できない心の弱さに焦点を当て、良心に基づくよい行動をとることができない私と自分を重ねたり、Aさんの為に行動することができたCさんと自分を比較したりしながら、自分の行為が及ぼす結果についても深く考えさせることで、本時のねらいに迫る考えを深めさせていきたい。

3 指導方針

○事前指導として

- ・授業中に様々な意見が出てくるようなクラスの雰囲気を作るために、普段から多くの生徒に意図的に発表の機会を与え、素地を養っておく。
- ・人によって見方や考え方の違いがあることや、相手の立場や個性を尊重しようとする気持ちをもたせるために、前時の道徳の学習でいじめのない世界へ（1）を扱い、いじめにあたる行為や判断の根拠について考える学習を行っておく。

○本時の学習として

- ・導入では、今の自分が主人公の立場になった時にとる行動についてのアンケート結果に触れることで問題意識を高める。
- ・本時で扱う道徳的価値をより深めることができるように、発問を精選したり、生徒の反応に対して理由を問うたり、切り返して聞いてみたりする。
- ・生徒の本音の反応をより引き出すために、全体での発表の機会だけでなく、班での交流や近くの席の生徒と意見交流の場を作る。
- ・終末では、今までの自分の生活を振り返り、本時で学んだことを自分の生活に活かすことができるよう、一人一人が振り返る時間を十分確保する。

○事後指導として

- ・クラス全員の意見を共有するために、授業で共有しきれなかった意見や感想等を含めて、生徒のプリントへの記入内容を学級通信にまとめて後日配布する。
- ・本時で目指す考え方や実際の姿をより具体的に生徒がイメージできるよう、行動に移している生徒が見られたら、その都度学級の時間等で紹介し、賞賛していく。

4 人権教育とのかかわり

いじめの構造については、1986年に森田洋司が四層構造を唱えている（2003年10月東京学校臨床心理研究会運営委員作成「いじめへの対応のヒント」より）。すなわち、内側から、①いじめられる側、②いじめる側、③観衆、④傍観者、と円を描くような構造である。いじめの持続や拡大には、いじめる生徒といじめられる生徒以外の「観衆」や「傍観者」の立場にいる生徒が大きく影響しており、「観衆」はいじめを積極的に是認し、「傍観者」はいじめを暗黙的に支持し、いじめを促進する役割を担っているとある。

中学生は、いじめそのものは悪いもので絶対にしてはいけないものという認識を多くの生徒がもっている。しかし事前のアンケート結果や本時で扱う資料にもあるとおり、実際にいじめやいじめに発展しかねない行動に出くわした時、いけないことと分かっているが止めることができない難しさや、正しいことと判断しても行動に移せないもどかしさを経験している生徒も多い。

本時では、いじめの構造の中で「傍観者」にあたる主人公の心の動きを想像したり、実際の行動に触れたりしながら、正しいと分かっていることが行動に移せない理由や、自分で判断した通りに行動するために大切なことは何なのかを考えさせる。主人公の心情に寄り添う思考を生徒にもたせることで、それを自身の心情に置き換えたり、実生活を想起させたりすることに繋げさせたい。そして、いじめはいけないという建前ではなく自分の弱さを理解した上で、良心に基づく良い行為は自分にとっても他者にとっても良い行為であることに気付くことで、自分の行為が及ぼす結果についても深く考え、責任ある行動がとれるような実践力を育てたい。

5 本時の学習

(1) ねらい

感じたことや思ったことを行動に移せなかった主人公の心情を想像することで、正しいと思ってもなかなか行動できない人間の弱さを感じながら、良心に基づく良い行為や自分の行為が及ぼす結果について考え、責任ある行動がとれるような実践意欲を育てる。

(2) 準備

ワークシート、場面絵、発問紙

(3) 人権教育の視点【育てたい態度・能力】

○感性：資料から傍観者といういじめの問題に気付き、自分が良いと感じたことや正しいと思ったことを行動に移すことができなかつた主人公の気持ちに共感する。

○実践力：人権尊重の意識をもち、自分の行為が及ぼす結果についても深く考え、責任ある行動をとろうとする。

(4) 展開

過程	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	<p>1. 本時で扱う道徳的価値について、アンケート結果から問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめをやめさせるのは難しいな。 ・止めようとしている人もいるのだな。 ・自分がいじめられたら嫌だから、いじめをその場で止めるのは難しいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】 自分が正しいと思ったことを行動に移すために、大切なことは何だろう。</p> </div>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートの結果から、いじめはいけないと分かっているけど、とめたりやめさせたりするのが難しい問題であることを認識させるとともに、似たような経験や同じ考えの生徒が多いことを確認する。 ○正しいと分かっているのにかわらぬ行動できない生徒がいることから、本時のめあてにつなげていく。
展開	<p>2. 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3. 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なぜ私は思っているだけで行動に移すことができなかつたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分もいじめられるのが怖かつたから。 ・自分から止める勇気が出なかつたから。 ・誰かが止めてくれると思っていたから。 ・周りの目が気になつたから。 ・積極的に止めようと思えなかつたから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なぜCさんはAさんのために行動に移すことができたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい人だつたから。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で学習したことを確認してから、範読を行う。 ○場面絵を利用し、登場人物や主人公を取り巻く状況を短時間で確認する。 ○私がAさんのいじめについて気付いていたところを確認することで、私が思っていたのに行動しなかつたことを明確に捉えられるようにする。 ○主人公の「いじめはいけないこと」「止めなければ」と思っているながらも行動に移せない葛藤や、心の弱さにも気付くことができるようにする。(人間理解)【感性】
		15分	<ul style="list-style-type: none"> ○主人公がとることのできなかつた行動をなぜCさんはとることができたのか、Cさんの心情についても考えられるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんと仲が良かったから。 ・ 見ていて我慢ができなかったから。 ・ 自分がやるしかないと思ったから。 ・ Aさんのつらさを理解できたから。 ・ いじめのあるクラスはいやだから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Cさんの「Aさんをこれ以上放っておけない」という言葉に対して主人公が「はっとした」のはなぜだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私の思いは間違いではなかった。 ・ 自分の考えを出していいんだ。 ・ Cさんみたいに実行すればよかった。 ・ 周りに流されず、自分が正しいと思うことをしなくてはいけない。 ・ Cさんも同じことを考えていたんだ。 ・ 自分が行動しなかったせいで、Aさんをつらい目にあわせてしまった。 ・ 学校に来たくなくなるほど、Aさんはつらかったんだ。 ・ Aさんを助けなければいけないという大事なことに気付かせてくれた。 <p>4. 道徳的価値に対する多様な意見を知り学習のめあてについて深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分が正しいと思ったことを行動に移すために、大切なことは何だろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の目や意見にとらわれず、自分の考えや意見を行動に移したり発言したりしようとする強い意志をもつ。 ・ 自分自身の行動に責任をもつように意識する。 ・ 相手が誰でも、自分の正直な気持ちを普段から伝えられるようにしていく。また、伝えやすいような雰囲気作りをクラスでする。 ・ 正しいと思ったことは貫き通す。 	<p>10分</p>	<p style="text-align: right;">(他者理解)【感性】</p> <p>○ Cさんは良心(ここでは、弱いものいじめは許さない)に基づいて行動に移したことを確認する。</p> <p>○ 「はっとした」という表現に着目し、主人公の心情がCさんの発言で大きく変化した様子を想像させながら、考えられるようにする。</p> <p>○ 他の人の意見を聞きながら、自分の考えたことと対比したり、共通点を探したりできるように自分の考えをワークシートに記入させるようにする。(他者理解)【感性】</p> <p>○ 多面的・多角的に考えられるよう私の思いにふれたり、問い返したりする。</p> <p>○ 生徒の反応を受け止め、意見を出しやすい雰囲気をつくる。</p> <p>○ 生徒の本心がたくさん出るように、基本発問や中心発問での意見を適宜振り返りながら考えられるようにする。</p> <p>○ 個人でじっくり考える時間を取り、自分の言葉で考えを表せるようワークシートに記入できるようにする。</p> <p>○ 意見の発表や板書を活用しながら、大切なことを多面的・多角的に捉えられるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(価値理解)</p>
<p>終末</p> <p>5. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p>	<p>10分</p>	<p>○ 一人一人が考えたことを記入できるように、しっかりと時間を確保する。</p>

<p>今日の授業で学んだことや、今後に活かしていきたいことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは、正しいと思ったことを行動に移すのが難しい状況でも、自分にできることを少しずつでもいいからやってみようと思った。 ・弱い気持ちに勝つのは難しいけど、それに負けないくらい強い気持ちをもって、自分が正しいと思ったことを信じてそれをしっかりと行動に移していこうと思った。 ・いじめ以外の場面では、自分が良いと思ったことが必ずしも正しいとは限らないから、状況をよく考えて責任をもって行動していきたいと思った。 	<p>○本時で学んだことを、今までの自己を振り返るとともに、今日学んだことを自分のこれからは生かすように、自分の気付きや考えを文章にまとめられるようにする。 (自己理解)【実践力】</p> <p>○意図的に指名し、多様な意見を全体で共有できるようにする。</p>
---	---

(5) 評価

- 主人公がはっとした理由について、他者の意見を聞きながら多面的・多角的に考えることができていたか。
- 正しいと思ったことや一度決めたことを行動に移すために大切なことは何か、自分事として考えることができていたか。

(6) 板書計画

第十四回道徳
傍観者でいいのか
めあて
自主・自律・自由と責任

振り返り

- ・周囲の目や意見にとられずに強い意志をもつ
- ・自分自身の行動に責任をもつ
- ・正しいと思ったことは貫き通す
- ・相手や誰でも自分の正直な気持ちを普段から伝えていく
- ・考えや意見を伝えやすい雰囲気作りをクラスでしていく

自分が正しいと思ったことを行動に移すために大切なことは何だろう。

一、私とCさんを比べてみよう。

なぜ私は行動できなかったのか

- ・自分もいじめられるのが怖かった
- ・自分から止める勇気が出なかった
- ・誰かが止めてくれると思った
- ・周りの目が気になった

なぜCさんは行動できたのか

- ・見ていて我慢ができなかった
- ・自分がやるしかないと思った
- ・Aさんのつらさを理解できた
- ・いじめのあるクラスは嫌だった

二、Cさんの「Aさんをこれ以上放っておけない」という言葉に対して、私が「はっとした」のはなぜだろう。

- ・自分の思っていたことは間違いないじゃなかった
- ・私もCさんみたいに行動すればよかった
- ・周りに流されず、自分が正しいと思うことをしなくてはならない
- ・自分が行動しなかったせいでAさんを辛い目に遭わせてしまった
- ・学校に来たくなくなるほどAさんは辛かったのか

三、自分が正しいと思ったことを行動に移すために大切なことは何だろう